

円滑な都心交通と快適な都市空間の創出

一般国道230号札幌市「北一条地下駐車場」

北海道開発局 札幌開発建設部 道路維持課 交通対策専門官 **伊藤 岳司**

北海道開発局 札幌開発建設部 企画課 営繕係長 **國分 守**

北海道開発局 札幌開発建設部 札幌道路事務所 第1工事課 第1建設係長 **高山 博幸**

を呈しており、旅行速度も無積雪期で約15km/h、積雪期には約10km/h程度とトラフィック機能がほとんど発揮されない状況となっています。

また、北1条通及びその周辺は商業、業務機能が集積された地区であることから路上駐車も多く、これに起因した交通事故や渋滞も発生しています。

1. はじめに

国道12号、230号北1条通は、札幌都心部の東西方向を結ぶ主要幹線道路で、南北方向を国道5号、36号にて連結し、札幌市のネットワークに重要な役割を果たしています。

また、北1条通は、北海道神宮の表参道として開かれ、多くの著名な歌人の「うた」にもうたわれてきた歴史ある「文化の道」で、「アカシア並木」としても多くの札幌市民に親しまれてきました。

現在は、都心部における東西方向の主要幹線道路として重要な役割を担っていますが、近年では、交通量の増加に伴う交通渋滞の慢性化、駐車場不足による路上駐車増加などから安全で円滑な道路機能の確保が難しくなっています。

本事業は、こうした問題に対応し、円滑な都心交通と快適な都心空間を創出するために、地上部の道路拡幅と地下部の駐車場整備を一体的に行う事業で、平成12年度完成を目指しています。



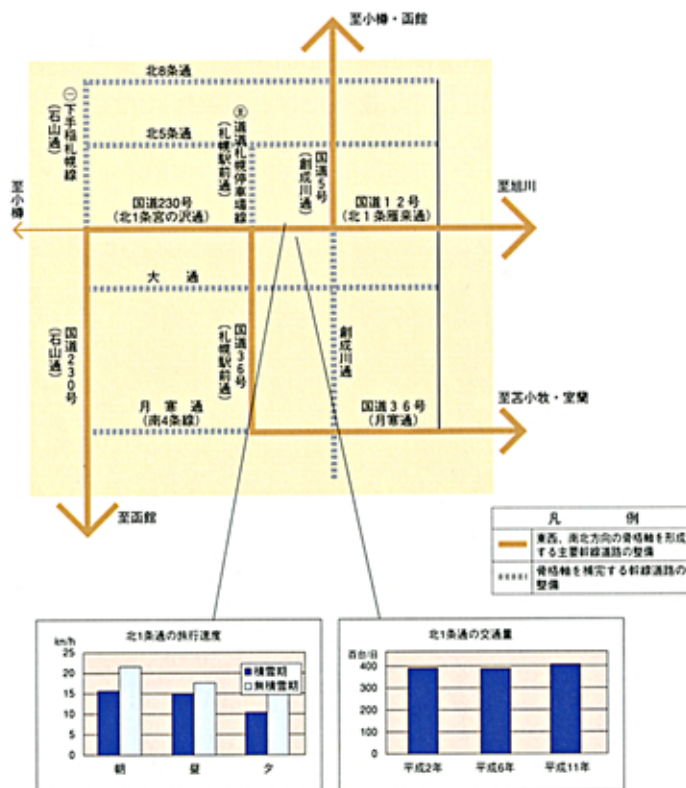
北1条通の交通環境の現状写真

2. 北1条通の道路交通環境

札幌市は、現在約180万人の総人口を有する全国第5位の地方中枢都市として発展しており、都心部では1日約45万台以上の自動車が出入しています。

これら著しい自動車交通需要の受皿として国道230号は都心部の東西方向の骨格軸を形成するなど重要な機能を担っています。

しかしながら、交通需要の増加に伴い現在の交通量は約40千台/日、混雑度は1.4と慢性的な混雑



3. 駐車場の必要性

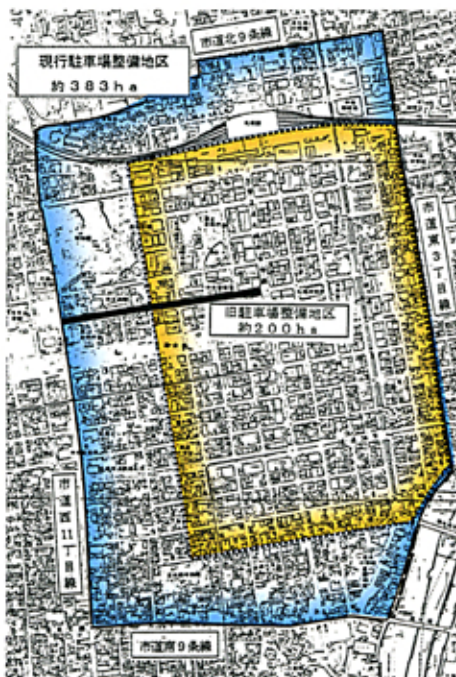
札幌市は、平成元年に商業・業務機能拡大による駐車問題の対応策の一つとして付置義務駐車場の拡大を目的に南北方向が北9条～南9条間、東西方向が東2丁目～西11丁目間の約383haを駐車場整備地区に都市計画変更を行っています。

その後、平成4年度に札幌開発建設部が行った北1条通り周辺の駐車実態調査の結果によると約150～200台程度の駐車場不足となっており、さらに平成9年度に札幌市が実施した駐車場整備基本計画においても依然として大通～札幌駅にかけての業務核や商業集積ゾーンでの駐車不足が著しいことが明らかとなっています。

こうした深刻化する駐車問題に対し、その改善に向け付置義務基準の見直しや駐車場案内システムの整備、パークアンドライド駐車場の整備など官民挙げての取り組みを行っており、このうちパークアンドライド駐車場は、通勤交通の都心流入抑制に少なからず効果を発揮していることが検証されています。しかし、都心部では都心への流入交通に加え、公共交通に転換しがたい業務活動を目的とした内々交通が多く占めていることや機動性に秀でた自動車の利便性から高次の消費活動の欲求を満たす買物・高次医療の通院など公共交通に多くの転換が見込めない目的の交通需要が多くなっています。

このようなことから北1条通及びその周辺は、駐車場不足による路上駐車が多く、それに起因した渋滞や交通事故が発生するなど交通環境の悪化が著しくなっています。

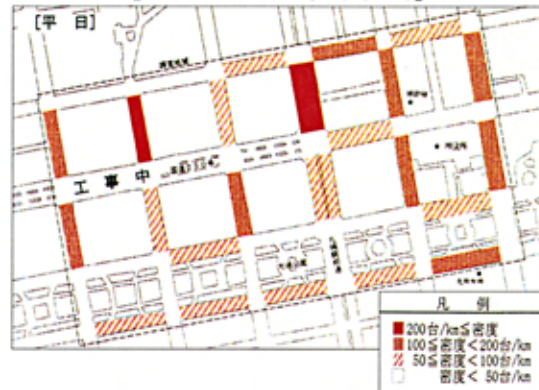
このため、この改善に向けた一方策として駐車場整備が必要となっています。



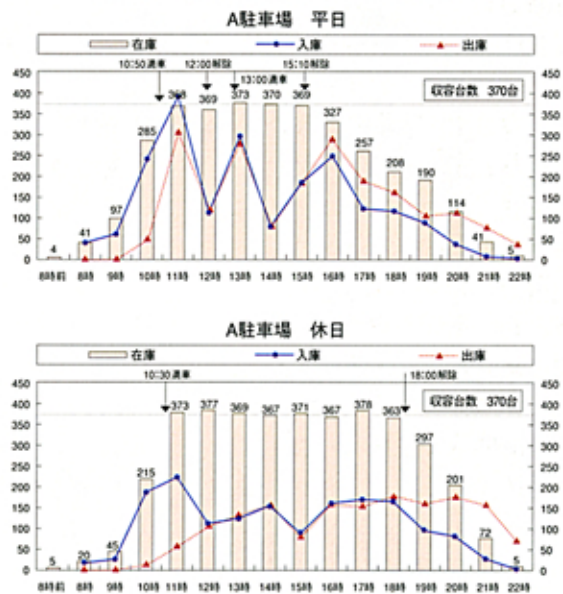
【北1条地下駐車場整備に係わる経緯】

- ◆平成元年 4月 札幌市駐車場整備地区を都市計画変更 (383haに拡大)
- ◆平成3～5年度 関係機関による札幌市道路地下利用協議会
- ◆平成4～5年度 学識経験者、関係機関による北1条通整備検討委員会
- ◆平成6年度 札幌市地下利用ガイドプラン策定

【無積雪時路上駐車状況】



【北1条通周辺の駐車場利用状況】

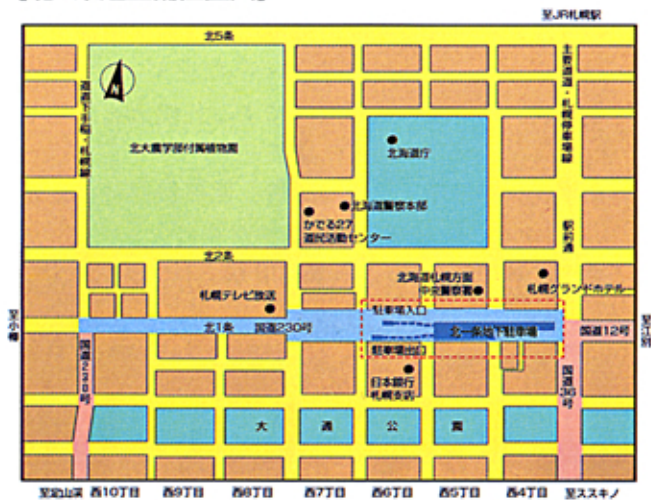


4. 北1条通整備の概要

北1条通整備は、円滑な都心交通と快適な都心空間を創出するために、地上部の道路拡幅(北1条西4～10丁目間を4車線に改良し、交差点での右折禁止を解消)と地下部の駐車場整備(北1条西4～6丁目間に整備し、周辺の路上駐車を転換)を一体的に行う事業です。

北1条地下駐車場整備では、駐車場の出入り口が西6丁目西方向にあり、歩行者は8箇所の階段及び1箇所のエレベーターにて地下1階歩行通路を利用することが可能です。

【北1条通整備位置図】



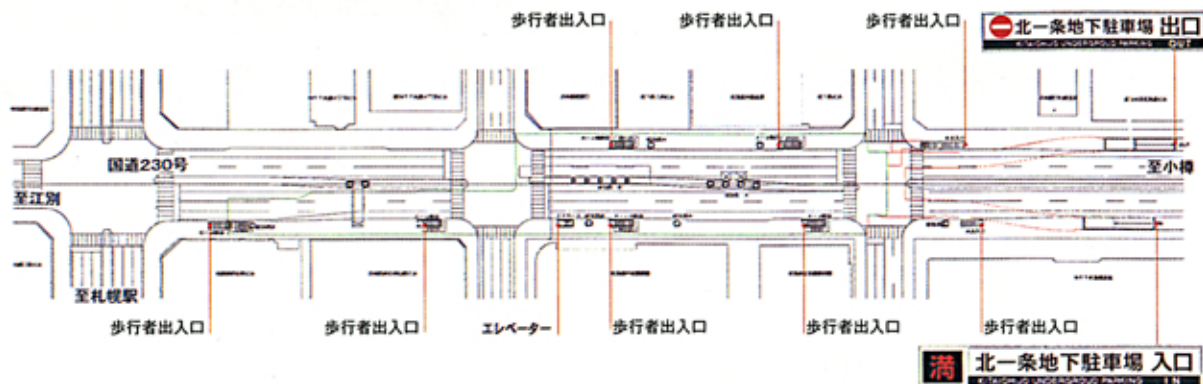
■地上部

道路区分 第4種第1級
 道路幅員 W=36.36m
 中央分離帯4車線整備
 電線共同溝整備

■地下部

駐車場収容台数 163台（内車椅子使用者用4台）
 駐車形式 自走式
 構造 地下2層構造、地下2階駐車場
 地下通路整備 地下1階地下通路

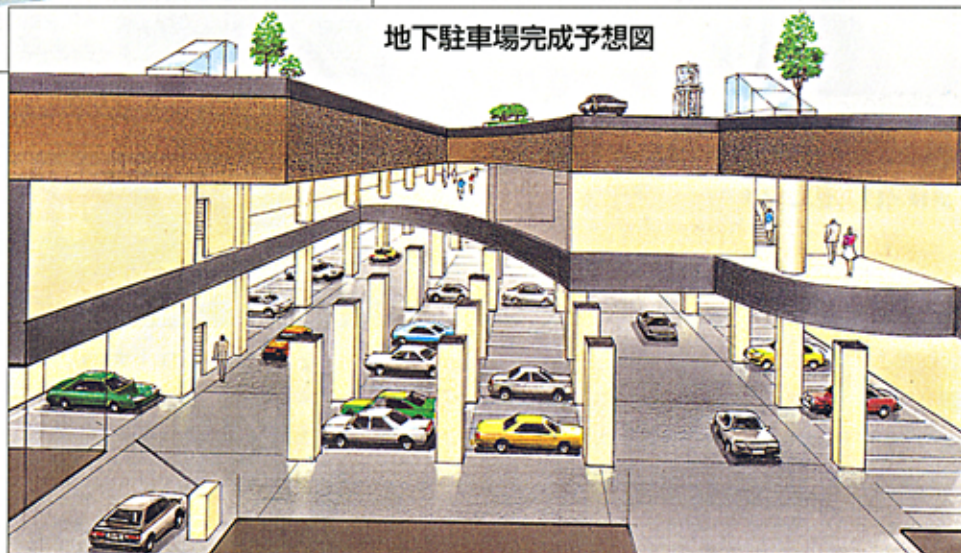
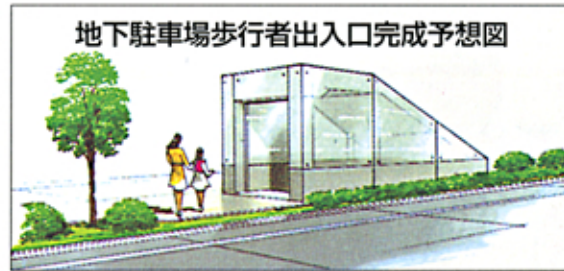
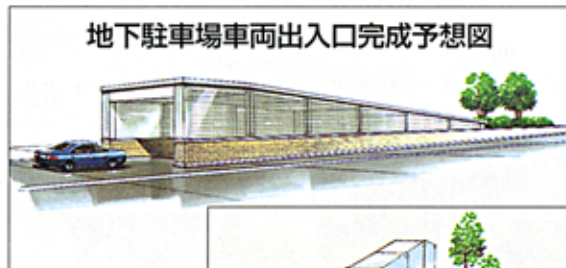
北1条通完成予想図



北1条地下駐車場完成予想図

歩行者の出入り口を安全上視認性の良い硝子のボックスにしたことにより、緑豊かな北1条通の感性と呼応するように何気ない階段の上り下りにおいて樹木がみれる。また、地下1階の

歩行者通路の壁は北海道の表参道としてのイメージを伝える上で煉瓦張りとするなど過去から未来へ札幌の文化をはぐくむ「悠久のみち」として整備される計画となっている。



5. 都市空間の有効活用による都心部の再生

北1条通周辺の環境は、過去の名残をとどめる歴史的・文化資源といえるものと、現在の市民生活に密着した施設、生活に潤いを与える施設が渾然一体となっており、北1条西4丁目周辺は、東西南北方向を合わせると約6万人の歩行者需要がある地区であります。さらに、現在、通信や電力ケーブルなどの電線類は、歩道上の電柱によって上空に張り巡らされ、これらの電柱は、歩行者や自転車、車椅子の通行の妨げになっており、都心部では縦横無尽に張り巡らされた電線によって都市景観が阻害されているとともに、消防活動等の障害になることがあります。

北1条通では、これらの解消と高度情報社会にふさわしい都市生活空間をつくるため、地上部では人に優しい道路整備として現況歩道勾配の緩和、道路地下空間に電線類を収容する電線共同溝(C.C.B)の整備を行っています。

【北1条通西7丁目以東修景イメージ】



6. おわりに

北一条地下駐車場整備は、主要幹線道路の交通機能を確認するとともに快適な都心空間の創造等21世紀に向けた健全な中枢管理機能の創出に重要な鍵をになうものと考えられます。